


ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立青森第二養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input checked="" type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	バザーでアナウンス案内をしよう		
	単元(題材)の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の合図で、タブレット端末の画面をタップして音声を再生する。 ・タブレット端末のアプリを使って、来客者を順路に誘導する。 		
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学	部	2 年 1 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元（題材）における主な実態を端的に記入する。 本生徒は、重複学級に所属している。返事はできるが、意味のある発語はない。活動時は集中力が短い、活動の内容を簡潔にしたり、繰り返し行ったりすることで、集中して取り組む時間が長くなる傾向がある。		
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用した ICT 機器（入出力支援装置等）名を記入する。 iPad		
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 えこみゆ	アプリマーク	
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input type="checkbox"/> 学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援)		
	ICT活用のねらい	発語がない生徒で、自分の思いが伝わらないと椅子を倒したり、物を投げたりすることがあった。そこで、アプリ「えこみゆ」を利用することで自分の思いを伝える（コミュニケーションする）ことができれば、達成感と肯定感を味わうことができ、望ましくない行動は落ち着いていくのではないかと考えた。 なお、本単元では、アプリの使い方を覚えることを重視した。		
活用の状況と支援	※ICT 活用場面と行った支援について記入する。 バザーの準備期間中に教師と一緒に合図や指さしで確認しながらアプリを繰り返し使った。また、タップしない部分の画面を隠したことで、タップする部分を明確にした。 バザーの本番では、タップしない部分の画面を隠すことで、タップする部分が分かり、集中して操作することができた。また、教師の合図や、タップする部分を指さすことで、タイミング良く画面をタップしてアナウンスの音声を再生することができた。			